

平成18年度  
事業報告書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

学校法人 武蔵野美術大学

# 目 次

I. 法人の概要	.....	P1
1、設置する学校	.....	P1
2、学部、学科	.....	P1
3、当該学校・学部・学科等の収容定員数、学生数の状況	.....	P2
4、役員、教職員等の概要	.....	P3
II. 事業の概要	.....	P4
III. 財務の概要	.....	P9

## I. 法人の概要

### 1、設置する学校

武蔵野美術大学  
武蔵野美術学園

### 2、学部、学科

武蔵野美術大学

造形研究科 博士前期課程（修士課程）

美術専攻

デザイン専攻

博士後期課程

造形芸術専攻

造形学部

日本画学科

油絵学科

彫刻学科

視覚伝達デザイン学科

工芸工業デザイン学科

空間演出デザイン学科

建築学科

基礎デザイン学科

映像学科

芸術文化学科

デザイン情報学科

造形学部 通信教育課程

油絵学科

工芸工業デザイン学科

芸術文化学科

デザイン情報学科

武蔵野美術学園

造形芸術科

メディア表現科

## 3、当該学校・学部・学科等の収容定員数、学生数の状況

## 武蔵野美術大学

大学院、学部	専攻、学科	収容定員	学生数
造形研究科 博士前期課程 (修士課程)	美術専攻	56	104
	デザイン専攻	56	89
	小計	112	193
造形研究科 博士後期課程	造形芸術専攻	18	25
	小計	18	25
造形学部	日本画学科	145	151
	油絵学科(～H17入学、編入学)	440	425
	油絵専攻(H18入学)	120	126
	版画専攻(H18入学)	20	22
	彫刻学科	132	145
	視覚伝達デザイン学科	422	443
	工芸工業デザイン学科	558	569
	空間演出デザイン学科	490	513
	建築学科	324	337
	基礎デザイン学科	298	318
	映像学科	325	365
	芸術文化学科	380	396
	デザイン情報学科	400	422
	小計	4,054	4,232
合計	4,184	4,450	

## 武蔵野美術大学 造形学部 通信教育課程

学科	収容定員数	学生数
油絵学科	980	1,392
工芸工業デザイン学科	735	575
芸術文化学科	490	454
デザイン情報学科	735	659
合計	2,940	3,080

## 武蔵野美術学園

学科	収容定員数	学生数
造形芸術科	210	98
メディア表現科	190	50
合計	400	148

## 4、役員、教職員等の概要

・法人役員	
理事	9名
監事	2名
・評議員	24名
・教職員数	
専任教員	133名
客員教授	13名
助手	53名
非常勤講師	612名
教務補助員	62名
事務系職員 (臨時含む)	186名

## II. 事業の概要

### 1 平成 18 年度重点課題

学校法人武蔵野美術大学は、これまでの到達と成果を踏まえつつ、平成 18 年度事業計画を策定する上で、次のとおり四つの重点課題を設定した。

#### (1)教育組織等の改編

21 世紀においては、美術・デザイン分野の専門性の深化と分野を越えた総合性が一層求められており、新たな展開と社会的ニーズを踏まえた改編が必要となる。このため、平成 16 年度より学長のもとで検討を重ね教育組織の改編の方針を確立し、平成 17 年度に学校法人のもとで必要な手続きを行い、入学試験を予定通り実施している。

#### (2)鷹の台校周辺の土地の購入を中心としたキャンパス拡充への準備

平成 17 年度には小平市小川町一丁目土地区画整理組合から保留地購入の打診を受けて協議を重ね、理事会の決定に基づいて購入の意向を伝えている。今後も鷹の台キャンパスにおける教育研究施設充実の基盤整備を目指して、協議を継続していく。

#### (3)「武蔵野美術大学 2004－2009 建築計画大綱」に基づいた建築工事の実施

2 号館（アトリエ棟）の平成 20 年 3 月竣工を目指した工事を着実に実施し、今後も大綱に従って、21 世紀の本学の教育研究施設の充実を進めていく。

#### (4)80 周年記念事業の展開

平成 21 年の創立 80 周年を迎えるにあたって、帝国美術学校創立以来の伝統を受け継ぎ、「真に人間的自由に達するような美術教育」と「教養を有する美術家養成」という建学の精神を堅持して、21 世紀にふさわしい新たな展開を目指す。

### 2 重点課題に基づく事業計画及びその進捗状況

上記の重点課題に基づく事業計画及びその進捗状況は次のとおりである。

#### (1)教育組織等の改編

平成 18 年度より次のとおり教育組織を改編した。

- ・ 油絵学科を「油絵専攻」（入学定員 120 名、編入学定員 15 名）と「版画専攻」（入学定員 20 名）に分離した。
- ・ 映像学科 3 年次以降の教育課程として「映像コース」と「写真コース」を新設した。
- ・ 造形学部 11 学科の入学定員、編入学定員を変更した。（入学定員 986 名、編入学定員 59 名、収容定員 4,062 名）

造形学部 11 学科の入学定員、編入学定員の変更は次のとおり。

日本画学科（入学定員 35 名→40 名）、油絵学科（入学定員 135 名→140 名、編入学定員 20 名→15 名）、彫刻学科（変更なし）、視覚伝達デザイン学科（入学定員 100 名→102 名）、工芸工業デザイン学科（入学定員 130 名→133 名、編入学定員 20 名→15 名）、空間演出デザイン学科（入学定員 115 名→120 名、編入学定員 15 名→10 名）、建築学科（編入学定員 0 名→4 名）、基礎デザイン学科（入学定員 70 名→73 名、編入学定員 10 名→5 名）、映像学科（入学定員 80 名→85 名）、芸術文化学科（入学定員 100 名→80 名）、デザイン情報学科（変更なし）

- ・ 大学院博士前期課程（修士課程）デザイン専攻に写真コースを新設した。
- ・ 大学院博士後期課程造形芸術専攻が完成年次を迎え、修了者 1 名に博士号（第 1 号）を授与した。

## (2) 教員組織の改編等

### ① 助教授の准教授への移行に伴う学則及び関連諸規則の一部改正

助教授を廃し、新たに准教授を置くこととする「学校教育法の一部を改正する法律」及び「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」が平成 19 年 4 月 1 日より施行されることに伴い、本学学則・大学院規則及び関連諸規則における「助教授」を「准教授」に変更する手続きを行った。

### ② 特別任用専任教員規則の制定

専任教員の多様な任用形態を可能にするために、「武蔵野美術大学特別任用専任教員規則」を制定し、2 名の特別任用専任教員の採用を理事会において決定した（平成 19 年 4 月 1 日付採用）。

### ③ 客員教授の拡充

教育研究の発展をさらに推し進めるべく、本年 4 月 1 日より「学校法人武蔵野美術大学客員教授規則」を改正し、平成 17 年度 7 名であった客員教授は平成 18 年度 13 名とし、客員教授の陣容拡充を図った。

## (3) 多様な入試制度の導入

受験人口の増加が今後とも見込めない社会情勢の中で、本学受験者の競争率の低下を防ぎ、優れた資質を持つ入学者を維持していくために、平成 20 年度入試から全学科でセンター試験を導入し、また新たに 4 学科（日本画学科、油絵学科、彫刻学科、デザイン情報学科）で公募制推薦入試を実施することを、教授会において決定した。

## (4) 文部科学省平成 18 年度「特色ある教育支援プログラム（特色 GP）」及び「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」における 3 件の申請及び採択

平成 18 年度特色 GP に「美術と福祉プログラムー造形ワークショップの展開ー」、現代 GP に『『いわむろのみらい』創生プロジェクトー地域のグランドデザイン形成を担う人材の育成と実践的教育プログラムー』（地域活性化への貢献、広域型）及び「造形ファイルー美術・デザイン教育のための知識モジュール群の開発ー」（ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program）を申請し、3 件ともすべて採択された。

## (5) 第 3 期自己点検・評価報告書の刊行

10 月に第 3 期自己点検・評価委員会からの報告書が理事長及び学長に提出され、「武蔵野美術大学 第 3 期自己点検・評価報告書」を刊行した。また、同報告書において示されている改善・改革方策について、理事長及び学長の指示に基づき、関連部署において改善に向けた検討を開始した。

## (6) 国際交流の推進

平成 18 年度新たにロンドン芸術大学、ベルリン芸術大学、プラット・インスティテュート、スウェーデン国立芸術大学、スウェーデン国立芸術工芸デザイン大学 Konstfack、グラスゴー美術学校の 6 大学と交流協定を締結し、交流協定校を 18 大学に拡大した。

## (7) 鷹の台校周辺の土地の購入を中心としたキャンパス拡充への準備

本年 1 月に策定した「武蔵野美術大学キャンパス基本構想」を踏まえ、中長期を見据えたキャンパス計画の展開の基盤を固めるため、小平市小川町一丁目土地区画整理組合と 3 区画（計 6,646 平米）の土地取得契約を締結した。

## (8) 「武蔵野美術大学 2004－2009 建築計画大綱」に基づいた建築工事の実施

① 2 号館・アトリエ棟（アトリエ、工房、講義室等 延床面積 12,000 平米）について、平成 17 年 11 月の着工後、平成 19 年 1 月の引渡し検査を経て、一部仮使用を開始した。平成 20 年 3 月に全面竣工の予定である。

② 11C 号館（共通彫塑研究室個人アトリエ）を建築した。

③ その他次のとおり諸工事を行った。

- ・ 体育館 1 階の空調工事
- ・ 鷹の台校における耐震補強工事（体育館、美術資料図書館）
- ・ 吉祥寺校における耐震補強・空調工事
- ・ 鷹の台校トイレ改修工事（5B・6・8 号館）

## (9) 80 周年記念事業の展開

80 周年記念事業実施本部会議において 5 つの記念事業（建築事業、奨学金事業、募金事業、文化事業、大学史関連事業）について、その具体化に向けて検討を進めた。

募金事業については、平成 18 年 5 月末より活動を開始、校友、在学生父母、企業及び学内関係者に協力を依頼し、2 億円を超えるお申し込み（分割払い含む）があり、1 億 3 千万のご寄付を頂いた（目標額 6 億円）。

## (10) 外部資金獲得の促進

本学の平成 18 年度私立大学等経常費補助金交付額は、一般補助 370,673 千円、特別補助等（特別補助及び私立大学教育研究高度化推進特別補助の合計、特色 GP 及び現代 GP の補助は含まない）212,096 千円の計 582,769 千円で美術・デザイン系大学のトップの座を占めた（教育学術新聞 平成 18 年度私立大学等経常費補助金交付校一覧より）。

## (11) 各部の取組み

<法人事務部>

- ① 4 月に 80 周年記念募金発起人発会式を開催、5 月末より 80 周年記念募金活動を開始した。
- ② 平成 18 年度現代 GP に「『いわむろのみらい』創生プロジェクト」を申請し、採択さ

れ、全学的な取り組みとして展開した。

③ オープンキャンパス、進学相談会において、平成 17 年度の産官学委託研究の取り組みを展示し、デザイン・イニシアティブ（日本産業デザイン振興会主催、東京ビッグ・サイト）にも出展した。

④ 「武蔵野美術大学短期大学部 47 年の系譜」の刊行

#### <企画部>

① オープンキャンパスの内容充実と進学相談会の機会拡充（2 会場の増加）及び内容の充実を図った。

② 高校・予備校の要望の高まりに答え、出張説明機会の拡充を図った。

③ 公開講座（実技 3 講座、トークショー形式 4 講座）を開催、また校友会との共催で地域フォーラム・アート&デザイン千葉を実施した。

④ 銀座スペースデザインコンペ（銀座アートエクステンションスクール主催、東京 6 美大参加）を実施し、本学学生は 9 つの企業賞のうち 5 つを獲得した。

⑤ αM プロジェクト（アートスペース kimuraASK? 京橋）において年間 8 つの企画展を開催した。

#### <総務部>

① 人事システムの構築を進め、今年度は専任教職員についてデータベース化を行った。

② 重要書類等のセキュリティー保護に向け、1 号館 2 階事務室フロアの機械警備を行った。

③ 予算執行状況、月次報告など決算効率の向上をめざし、財務会計システムの導入を行った結果、毎月の各部課室の予実算管理及び財務三表等出力の迅速化が図られた。

④ ネットワーク環境の各種サーバ及びハードウェアなどの更新統合を行った。

#### <教務部>

① 新カリキュラムにかかる学生アンケートを継続実施すると共に卒業生へのアンケートを実施した。

② 平成 18 年度現代 GP に「美術と福祉プログラム」を申請し、採択された。

③ 学生による授業評価を実施した。

④ 学生証の IC カード化に伴う授業出欠管理業務の運用、証明書自動発行及び試験課題管理システムの稼働を開始した。

⑤ 新 2 号館をはじめとした講義室の整備を図った。

⑥ 大学院修了制作作品集、教員プロフィール集及び同補遺版を制作、刊行した。

#### <国際部>

① 交換留学について 5 校と実施（派遣 5 名、受入 9 名）、また 8 件（9 名）の訪問教授を招聘、5 名の外国人研究員を受け入れ、110 名の留学生を受け入れるなど、海外との交流を進めた。

② 米国のプラット・インスティテュートと協定に基づく学生交換を平成 18 年度より開始

した。

- ③ 卒業後の海外留学を支援するために、留学相談（随時）、留学説明会の開催、留学希望者への英語学習オリエンテーション等を実施した。また、フランス大使館との共同開催によるフランス留学フェアの学内実施、TOFEL 検定試験の学内実施、国際部長監修による図書「デザイン／アート留学の進め」の刊行などを行った。
- ④ 平成 18 年度から学内の各研究室が行う国際的な教育活動に対する国際交流プロジェクト助成を開始した（採択数 5 件）。また、学生による交流プロジェクトへの支援を実施した（1 件）。

#### <学生部>

- ① 大学奨学金の選考・支給基準をより現実に即したものに改めた。
- ② 原則として授業期間中の保健室開室時間を午後 8 時まで延長し、学生の怪我等への対応を図った。
- ③ 学生のニーズに対応できるよう臨床心理士の勤務日数を増やすなど、学生相談室の体制を強化した。
- ④ 就職ガイダンス、進路・就職講座、職種研究会、インターンシップ、個人面談を実施、「進路インフォメーション」を発行した。
- ⑤ 求人・企業検索等就職情報システムの円滑な運用に努め、就職情報ネット環境の整備による的確な情報・サービスの提供を図った。

#### <通信教育課程>

- ① 平成 18 年度で三回目となる学生による授業評価を継続して実施した。
- ② 平成 18 年度現代 GP に「造形ファイル」を申請し、採択された。
- ③ これまでデータ化されていなかった短大通信教育部学生の学籍簿の電子データ化を行い、短大通信卒業生の証明書発行業務の効率化を図った。
- ④ 通信教育課程学生への支援の一環として、「通信 MAU 手帳」（平成 19 年度追加補助教材）を制作した。
- ⑤ スクーリング受講生の増加に伴い、授業時に支障のないよう授業用機材の整備・充実を図った。

#### <美術資料図書館>

- ① 図書館システムの全面リプレースを行った。
- ② 新施設での展開に向けて閉架書庫に収蔵している資料の書誌分類の不備を調査し、新規分類記号を付与し、請求記号体系を再編するなどそのメンテナンスを完了した。
- ③ 新施設での展開に向けて貴重資料のデジタルライブラリー構築を目指し、まず平成 18 年度に絵本コレクションの画像データベース化に着手した。
- ④ 博物館学芸員実習（芸術文化学科、通信教育課程）の受入体制の整備・強化を図った。

### Ⅲ. 財務の概要

#### ●財務比率について

消費収支計算書及び貸借対照表から本学の過去4年間の財務比率を計算し下表に示した。なお、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系18法人の平均値を表したものである。(いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成18年度版による)

消費収支計算書関係財務比率

(単位:%)

	比率	算式(×100)	評価	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	芸術系学部平均
1	帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↗	14.6	12.7	13.1	14.8	9.1
2	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	87.7	88.9	86.0	83.8	79.2
3	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↗	0.3	0.6	0.7	2.9	2.0
4	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↗	5.3	5.2	7.6	7.1	8.2
5	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↘	50.2	48.3	47.0	46.9	52.5
6	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↗	28.7	31.0	31.5	30.1	28.0
7	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↘	6.3	7.9	7.8	7.8	8.7
8	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	↘	0.011	0.000	0.000	0.000	0.7
9	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	↗	8.5	12.0	17.2	15.3	19.0
10	減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	—	11.7	11.1	8.3	8.7	12.0
11	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	↘	57.2	54.3	54.7	55.9	66.3
12	消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	↘	93.3	99.1	104.9	100.6	112.2

貸借対照表関係財務比率

(単位:%)

	比率	算式(×100)	評価	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	芸術系学部平均
1	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	↗	89.0	89.2	89.5	89.1	87.2
2	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	↗	6.4	6.3	5.2	4.8	0.6
3	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↘	88.3	87.0	88.1	88.5	99.9
4	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	↘	83.5	82.6	83.8	84.5	92.0
5	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	78.5	77.6	78.9	78.9	87.1
6	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	44.6	42.0	44.1	48.2	56.3
7	その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産}}{\text{総資産}}$	↗	34.0	35.6	34.8	30.6	30.8
8	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	↗	21.5	22.4	21.1	21.1	12.9
9	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↗	358.4	369.2	356.7	317.6	239.8
10	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	↗	100.0	100.0	100.0	100.0	59.5
11	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	↘	5.0	4.8	4.5	4.2	7.5
12	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	↘	6.0	6.1	5.9	6.7	5.4
13	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↘	11.0	10.8	10.5	10.9	12.8
14	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↘	12.4	12.2	11.7	12.2	14.7

(※) [評価] ↗ :高い値が良い      ↘ :低い値が良い      — :どちらもいえない